日本政府がかつて国策として進めたハンセン病患者へ隔離などの対応、 そして現在の沖縄の「基地」問題。この二つは同根であると、奥間政則さんは言います。 ふたつの問題の当事者でもある奥間さんの綿密な調査と実体験に基づく知見から、 国策が市民を分断し差別を生み出す構造を読み解き、 私たちもまた「当事者」として、国策と人権について考える時間にしたいと思います。





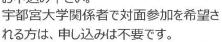
講師 奥間政則

おくままさのり 奄美大島で元ハンセン病患者の両親のもとに生まれる。沖縄県国頭郡大宜味村在住。元士木技術者であり、その知見を生かして辺野古の調査団や共同で立ち上げた「沖縄ドローンプロジェクト」などで活動。新聞に記事が掲載されたことがきつかけで、2017年からは沖縄の基地問題とハンセン病問題の2つの国策の差別をテーマに各地で講演活動も行っている。

問題の当事者とし差別を考える

2022年 **12**月**16**日(金) 16時~18時

- ■開催方法と定員 対面参加:先着100名 zoomでの参加も可能です いずれも無料です
- 対面参加の会場 宇都宮大学峰キャンパス 5 号館B棟 1 階 5B11教室
- ■参加申し込み 学外の方は対面・zoom ともにQRコードまたは URLから12/15までに お申込み下さい。 字数字大学問係者で対



https://forms.gle/RzJ5g3zcTf8v5pbm8

問い合わせ先■清水研究室 uuforumsymposium(a)gmail.com (a)を@にかえてお送りください